日本共産党松江市委員会機関紙
新しい松江
発行　日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3－6　電話24－2456

県知事 県議選勝利で 原発のない 安心の島根を

ロシアはウクライナから撤退を

日本共産党島根県委員会は2月15日、向瀬しんいち氏を県知事選に擁立することを発表、18日に、県議選を闘う尾村としなり県議との合同事務所開きを行い、50名が参加し必勝を誓い合いました。

大平喜信元衆院議員が激励に駆け付け、岸田政権が進める大軍拡について「国会にも国民にも一切説明する姿勢がない、日本共産党の躍進で岸田政権ノーを示そう」と呼びかけました。

向瀬氏は「規制委員会のすべての審査が終わっていないのに、丸山知事は原発再稼働に同意した」と批判し、「再稼働は撤回し原発のない島根を作る」と決意を述べました。

尾村氏は「オール与党の県議会で、県民の立場で筋を通すのは日本共産党だけ、県民の命綱として引き続き働かせてほしい」と訴えました。

大平よしのぶ元衆議院議員がまちかどから訴え

ロシアは侵略戦争やめよ

2月24日、ロシアがウクライナ侵略を初めて1年の日、JR松江駅前で、新日本婦人の会がよびかけ「一日も早く戦争やめて！軍拡より生活」と訴える集会が行われました。

リレートークで訴えながら、駅前を歩く市民に憲法リーフを配りました。受け取った市民から募金が寄せられるなど激励がありました。

同日夕方、たちばなふみ市議と後援会が「ロシアは国際法まもれ。岸田政権はアメリカいいなりの大軍拡やめよ」と訴えるまちかど宣伝を行いました。国の来年度予算は軍事費のみ2倍となり社会保障費が千5百億円もおさえられ中小企業対策費や農業予算もマイナスです。「5兆円ふやす大軍拡をやめれば、学校給食の無償化、大学学費の無償化、保育士や学校の先生の大幅増員、医療費の引き下げなどが実現できます。税金は教育や福祉、暮らしに使わせましょう」などと訴えました。

手作りのプラカードで訴える新婦人のみなさん

たちばなふみ市議と後援会のみなさん

くらし一番 何よりいのち③

現行の避難計画は冷酷 2号機の再稼働は撤回せよ

県議会議員　**尾村 利成**

尾村利成 県議会議員

私は2月24日、一問一答質問で、昨年6月に島根原発2号機の再稼働同意を表明した丸山達也知事を質しました。

質問では、①党が実施した市民アンケートでは約6割が再稼働に反対、②コロナによる医療ひっ迫や大雪による交通障害などを通じ、避難計画に実効性がないことは明白と強調しました。その上で、現行の避難計画は、入院患者は山陽3県や四国・関西地方までの転院が計画され、命と健康を顧みない冷酷な計画と指摘し、「なぜ病気で苦しんでいる人が転院させられるのか。再稼働強行は命を軽視し、県政への信頼を失墜させる」と訴えました。

丸山知事は「複合災害への対応を含め、避難計画には実効性がある」と強弁。これに対し、私は「実効性を判断するのは、避難する当事者や避難に携わる医療や福祉、学校、保育関係者だ」と反論し、各施設への詳細なる調査を要求しました。

また、避難の受け入れ自治体の広島県庄原市議会が昨年3月に、「2号機が再稼働され、重大事故が起きれば、その被害は計り知れない。何より重視すべきは住民の命と安全である」と再稼働反対決議を採択したことを紹介しました。

避難計画に実効性などありません。2号機の再稼働同意は撤回すべきです。

くらしや福祉、教育は 松江市議会2月定例会始まる

2月21日、松江市議会2月定例会が招集され、上定市長が令和5年度の施政方針を述べ、1035億1500万円の令和5年度一般会計や十四会計の当初予算案、19億6000万円余の令和4年度一般会計補正予算案など12会計の補正予算案、条例案17件、その他契約案件など、合わせて67件を提案し、3月24日までの会期を決定しました。

一般質問は27日から3月1日まで行われ、共産党市議団の舟木けんじ、たちばなふみ両市議は、1日に一般質問に立ちました。質問項目は以下のとおりです。

舟木 けんじ市議
1　不登校支援について
2　高齢者施設における新型コロナ感染症対策について
3　原子力防災訓練について

たちばな ふみ市議
1　原発問題について
2　松江から平和の声を
3　性の多様性認め合う社会
4　もう一人保育士を！
5　子育て支援に逆行する給食費値上げ

（次号より詳細を紹介します）

3月3日には予算委員会、6日から15日まで各委員会、20日には予算委員会での採決、24日議会最終日本会議で予算、条例、陳情などすべての議案が採決されます。予算や条例改正の主なものや問題点など次号より紹介します。